

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500467		
法人名	有限会社KSカムレイド		
事業所名	グループホーム松の実		
所在地	福岡県大川市向島2665		
自己評価作成日	平成30年4月25日	評価結果確定日	平成30年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

元外科医院の建物を改築して開業しているので地域との馴染みもあり、近所の方との交流もうまくいっていると感じている。大川ならではの木工祭、東洋一の昇開橋を背景とした昇開橋祭り等地域での催し物にも恵まれている。職員も地元が多く利用者も職員も方言で会話し本当に家族的な付き合いが出来ていると思える。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成30年6月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社名であるKSカムレイドには「笑顔絶やさない仲間たち」の意味があり、H17年に元外科医院の建物を改築して設立されたのが「グループホーム松の実」である。近くに公園や神社があり、遊歩道が散歩コースになっている。玄関を入ると飾り棚等に施設長手作りの干支等の和もの作品や絵等が飾られ、庭で咲いたひまわり等が飾られている。敷地内の広い庭園は、柚子等の木の実や向日葵等の花が植えられている。家庭菜園もあり、椅子を並べておやつを食べたり活用されている。地域との交流も深く、昨年は敬老会を兼ねて、福祉センターで介護講座や笑いヨガ等を開催し、歌手を呼び職員等の催し物等を行なった。地域の方々約300人の参加者で大々的に開催している。事務長は理学療法士の資格を持ち、その指導下、下肢運動等も取り入れている。職員も入れ替わりも無く、長年勤めている為、気心の知れた職員の介護で安心出来、和気あいあいと家庭的な雰囲気の中、笑い声も多い。今後も地域の拠点として発展される事が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員で話し合った理念を作っているため、その理念に基づき実践している。	職員全員で決めた事業所理念の「活き活き悠々と地域の中でその人らしく過ごしましょう」は、玄関や2階やエレベーターの中や入居者の部屋にも掲げ、入居者にも判る様にしている。月1回のカンファレンスの中で職員間で理念に基づき次回の行事等話し合い、次回に反省会もしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのふれあいを持ちやすい環境の中に事業所が立地しているため、地域の方との交流は日々おこなわれている。	町内会に参加し回覧板も回ってきている。市報できた堀掃除には施設長が、お宮の掃除には職員と入居者が参加している。地域の祭りに、入居者全員が玄関先で見物し、三角旗を片付けたり、焼き芋を焼いて子供達が貰いに来ている。介護学校の体験実習の受け入れや、事業所内で地域の方や家族を呼び介護講座を開催している。昨年10月は福祉センターで敬老会を兼ねて開催し、外部講師や歌手等も呼び、大盛況の中取り行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護講座を開いたり、敬老会のときなどは理学療法士による講義をおこない、また推進会議のときなども認知症について話したりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のときは、前回の会議からの事業所の取組みを報告し、それについて話し合いや意見を求めたりしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。市役所代表や包括支援センター、地域代表や民生員、家族代表等の出席がある。運営会議でインフルエンザの流行もいち早く情報を貰い、事業所で感染予防の対応をしている。民生員から地域の方の事で相談があり、実際に施設長等が出向き対応した事がある。近所の方の相談事も多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議はもちろんのほか、いろいろな場面で説明を求めたり、指導を受けたり相談したりしている	介護保険の更新申請はケアマネジャー等が窓口に行き直接行ったり相談し、顔なじみの関係の構築は出来ている。空き情報の連絡が来て入居にも繋がっている。シェルター機能として関係機関からの紹介を受けて直接入居された方もおり、今は穏やかに過ごされている。地域から頼りにされている事業所である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開き、職員全員が拘束についての理解をするようにつとめている。但し22時から翌日6時まででは防犯の意味もあり玄関は施錠している	身体拘束廃止委員会を設置し、外部研修後に内部に伝達研修を行っている。毎月のカンファレンスで、身体拘束廃止会議及び研修会を行ない職員に周知している。身体拘束はしていない。日頃より、言葉かけも気を付けて、強い言葉は言わない様にしており、気が付いた時はすぐその場で施設長が注意している。介護ロボットを利用し入居者4名の体調等の見守りをしており、安心ネットワークにも登録している。	

H30.6自己・外部評価(GH松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会をおこない虐待についての理解を深め職員の意識付けをおこなうようにしている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開いている	以前に成年後見人を利用されていた方もいた。現在自立支援を利用されている入居者がいる。入居時に施設長から成年後見人等の説明をしており、パンフレットも常備している。外部研修後に内部に伝達研修し、職員は理解出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る範囲で説明し理解していただくよう努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族との会話の中で要望や意見があったときは必ず経営者に伝えるようにして改善につなげている	家族からは、入居者の個別の要望が多く、すぐ対応し申し送りノートに記入し、職員全員に周知している。運営推進会議開催の案内書を送付し、家族の参加や意見を記入する欄を設けた用紙も送っているが、運営会議に家族の出席は少ない。ケアプランの更新には必ず家族が来られる為、話を伺い、要望等を聞いている。	運営推進会議開催案内書を送付し、意見の抽出にも努められているが、入居者個別の要望が多く対応されている。ケアプランの更新時には必ず家族が来訪される為、事業所に関する意見の抽出を試み、事業所で運営に反映させられる取り組みを期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や代表が現場に入り身近に意見を聞くようにしている	年2回、施設長の個別面談があり、職員は日頃も意見や相談し易い環境である。以前に職員の意見で「夜のカンファレンス開催を、女性職員も多い為、昼間のカンファレンス開催に変更出来ないか？」の意見が出て検討され、昼間に変更になり助かっていると職員も喜んでいました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りをこころがけている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用の基準をとくには決めておらず、入社してからの資格取得も支援している	30～60歳代の職員がおり、採用時の年齢制限はしておらず、男性職員も6名就労している。開設13年になるが、職員の入れ替わりもなく、年齢差はあるが、和気あいあいと楽しく働きやすい環境である。資格取得等に向けて、研修案内も多く、休みたい時もシフトを考慮して貰える。休憩時間は空き部屋等を利用して休憩も出来る。施設長も手芸が得意で、職員も一緒にしたり能力を生かして勤務出来ている。	

H30.6自己・外部評価(GH松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に勉強会を開き指導している	毎年1回、大川市主催の人権研修等の外部研修に出席し、その後内部に伝達研修をしている。事業所内で講師を呼び、キャラバンメイトの講習会も受けた事もある。職員も周知し理解出来ており、人権を尊重した声掛け等が出来ている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の機会があれば可能な限り支援するよう努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加することにより交流できるようにしている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前のある程度の情報を得るようにし、少しでも本人を理解するように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にご家族の要望を聞くようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り必要なサービスが受けられるよう調べたりして支援するよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員に利用者を家族とおもうような意識付けの取り組んでいる		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力が必要なことを理解していただき、事業所の一方的な支にしないよう努めている		

H30.6自己・外部評価(GH松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所に行ったり、交流の機会が出来るよう努めている	知人の面会も多く、地域の祭りや花見等にも、入居者全員で出掛ける事も多い。お盆やお正月の帰宅時に車椅子で家族が送迎出来ない時は、職員が送迎したり、お墓参りや自宅が気になる方にも、職員が連れて行っている。毎月の医師の言葉や、入居者のコメント等も入れた用紙を、請求書と一緒に送付している。2か月に1回は行事写真等を掲載した「松の実だより」を家族に送付し、馴染みの人等との関係が途切れない様支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、趣味、好みに合わせた交流ができるよう支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者のご家族は近くの方が多いため、割と疎遠にならない関係性が出来ている方だと思う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の思いを理解できるよう職員間の情報の共有に努めている	入居当初は施設長や看護師が聞き取りをしている。その後暮らしの情報は家族に記入して貰ったり、職員が聞き取りして生活史シートに記入している。職員1人が入居者3人を担当し、初回アセスメントはケアマネージャーが行っている。言葉で言えない入居者は、毎日の表情で汲み取ったり、職員間で聞き取りや話合って意向の把握に努めている	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用になる前にできるかぎりの情報を得るように勤めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のモニタリング等により把握するよう努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者だけでなくカンファレンスの時などに他の職員からいけんや状況を聞くようにしている	毎月1回のカンファレンスで入居者の体調等を話し合っている。プランに基づき、毎日の実施状況を記録し、毎月の評価は担当者が記入している。6か月毎や状態変化時に見直し、担当者会議を開催し、医師の意見や、家族や本人に意向を盛り込み、各ユニットのケアマネージャーが介護計画書を作成している。	定期的な介護計画書を作成し、毎日実施記録を記入し、モニタリングも行い、介護計画書を作成しているが、短期目標と長期目標の期間が同一期間だった為、期間の見直しと、介護計画書の日付が以前の年月日のまま表示されているのがあり、修正される事が望まれる。

H30.6自己・外部評価(GH松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録をとるようにし、また特に注意するようなことは申し送りするようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じて可能なサービスができるよう努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前から利用されていた資源はできるだけ続行できるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に添った受診往診ができるよう医療機関と連携に努めている	馴染みの掛かり付け医を家族送迎で受診したり、提携医の訪問診療を受けられている入居者もいる。提携医は24時間対応可能で、事業所内で予防接種も行っている。家族送迎で受診される時は、体調や状態を記録した手紙を渡している。看護師が受診結果を聞き取り、訪問診療時の診療結果を、申し送りノートや、本人のモニタリング表の下に記録し、職員が記録を確認して共有している。希望で訪問マッサージ等も利用できる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態報告はまめにおこなっている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所として解る範囲での情報の提供おこない、また医療機関からも情報提供を頂くように働きかけている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医とも話し合う機会を設け、その結果、方針などを全職員が理解するようにしている	毎年3～4名の看取りを行っており、長年勤めた職員も多く、全員看取りを経験している。初回の契約時に看取りについて説明し、重度化された時に、医師と家族が話し合い、病院か事業所での看取りかを決めている。看取りの方針がありプランを作成し、主治医や看護師より、病状や精神的ケアを含めて話があり、職員全員で毎日毎日、話し合いながら看取りのケアを行なっている。	

H30.6自己・外部評価(GH松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開いている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練をし、地域の方にも協力は依頼している	年2回昼夜を問わず、火災や水害を想定して、避難訓練を実施している。年1～2回消防署立ち合いで、消火器も使用している。近隣の薬局や文房具店の協力体制もあり、備蓄も水や、2日分程度の食材も準備して対応している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけるようには指導している。またふさわしくないと思われた時は注意している	年1回は定期的に接遇マナーの内部研修会を開催し、職員は周知している。写真の同意書も取得し、事業所内は沢山の写真が飾られている。大川地区の入居者や職員も多く、筑後弁で楽しく会話しているが、慣れ合いにならない様にしている。家族にこういう言葉を使用しても大丈夫か？、入居者の名前の呼び方も家族に確認してから、声掛けを行っており、敬意を払った対応がされている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく表情をみながら理解するよう努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員の希望をかなえるわけには行かないが、希望があればできるだけ添うよう努めている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち物の中で工夫している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化されてきている利用者が増えてきている中、介助にて食事を摂取、又飲み込み時間に時間がかかるかなど思うようにはできないが、そのなかでも努力はしている	栄養士と相談し1か月分の献立表を作成し、治療食も出来、食欲の無い方には栄養補助食品も使用している。食材の配達業者からあるが、職員が買い物へも行っている。頂き物や庭の野菜等も利用し、新鮮な食材で職員が調理し、入居者も無理の無い出来る範囲で手伝っている。目の前でたこ焼きやお好み焼き等を作ったりもしている。外出した時は外食やお弁当も購入したり作っている。職員や家族にも150円の安価で食事が提供されている。職員も一緒に、家族来訪時は家族と一緒に美味しい食事を楽しんでいる。	

H30.6自己・外部評価(GH松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師、介護職、調理職が情報を共有し、またチェックおこない注意している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は難しい時もあるが夕食後だけは必ず行なうようにしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の課題として取り組んでいる	排泄チェック表に記録し、介護経過に排尿の時間も記録している。退院した方を、カンファレンスで排尿時間を見て話し合い、リハビリパンツとパット使用に改善された方もいる。女性入居者が失敗された時は、女性職員に代わり、周りに気付かれぬ様に声掛け誘導して、介助している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつも個々に添った支援が出来るわけではないが、無理強りするようなことはせず、希望に添うようには努力している	月曜～金曜日の間に週2回入浴だが、希望で入浴日の追加や一番風呂が良いと言う方も対応でき、以前は毎日入浴されていた方もいる。各階で大きな浴槽で個浴で好みの湯温で入浴でき、職員は安全な介助や皮膚等の観察をしている。石鹸やシャンプーの持ち込みは自由で、事業所の庭に実る柚子を入れて季節を楽しんだり、冬場は血流が良くなる様に足浴も行っている	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が働きやすい環境作りをこころがけている個人個人を理解し工夫している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録のなかに説明書を作り貼付している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に聞き合わせしたりして、ご本人を理解するなかで支援するようにしている		

H30.6自己・外部評価(GH松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲で支援するよう努めている	近くに公園や神社もあり、遊歩道が日々の散歩コースとなっている。お正月は三社参りや、季節毎に全入居者と花見等に外出し外食も多い。急遽話合いで外出を決めて出掛ける事もある。「その人らしく過ごしましょう」との理念もあり、入居前に競艇を楽しまれていた方に、見るだけだが競艇に連れて行き楽しんで貰ったり、ドライブや喫茶店等に個別の外出支援もあり外出は多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じた支援をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	充分おこなっている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どうしても狭いので生活が密着しており、混乱をおこすようなことは少なく、季節感も感じやすいと思う	フロアは少し狭いが工夫して、干支や季節等の手作りの飾り物や、行事写真も多く飾られ、暖かい雰囲気を感じさせている。空調を重視し、各階にオゾン発生装置が設置されている。1階でインフルエンザが発症した時は、マイクロジェット機械で各部屋を殺菌し、2階への感染を防ぎ、元病院の名残りでオートクレーブが置いてあり活躍したとの事。病院の視力検査器も置かれており、時々視力検査もされ、活用されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過せることをいつも伝えている。またどうしても気の合う合わないがあるので職員の判断で移動させていただいたりしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し馴染みのものを出来るだけ持ってきていただくよう依頼するがなかなか難しいので出来る範囲で工夫している	各部屋の名札には、入居者の似顔絵と本来の住所が、忘れない様にと書かれており、退所時に名札を渡して喜ばれている。備え付けのベットやクローラーがあり、慣れた物の持ち込みは自由で、仏壇・筆筒・ソファ・テレビ・家族の写真やぬいぐるみ等がある。洋間を畳みに変更可能で、転倒予防で厚手の絨毯を敷いている。入居当初は家族が防災カーテンや家具を設置し、その後は入居者の動線を考慮し、職員が配置換えしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	狭い空間ではあるが、出来る範囲で工夫している		